

声 明 文

旧IBMグランド跡地周辺は、私達近隣住民の憩いの場所であり、ふるさとの一部です。この地に超巨大マンションを建設し、緊急車両も通行不能になる程の交通麻痺を起こさせ、周辺の日照権・プライバシー権を侵害し、風害、電波障害など惹き起こす計画がなされる等とは、誰一人夢にも思いませんでした。

計画を知らされてからは、このような計画がいかに無理なものであるかを、私たちは市当局や、建築主・施工業者長谷工コーポレーションに説き続けてきました。道路が狭小で、車の通行には適さない事、小中学校その他子どもの育成には過密な人員受け入れの余地が無いこと。

数多くの問題点が、現実に存在するにも拘わらず、この計画を推進する長谷工などは、私達住民の訴えには、全く耳をかきませんでした。そして遂に、工事車両を進入させ、着工の事実を私達住民に突きつけて、建築を認めさせようと、企んでいます。

私達町田市民は、断じてこのような企みを許しません。今まで指摘して来た、交通障害や学童受け入れの改善は何一つ解決の展望が無く、全く無策の俛、唯建築だけが先にあるという状況だからです。「景観法」施行が、殆ど現実の日程となっている今日、グランド周辺からの美しい景観を損ねる権利は、地権者・建築主と雖も些かもありません。

また町田市猛禽類調査グループの方々は、オオタカの存在も明らかにして、この建設計画撤回を求めています。「種の保存法」の対象種であるオオタカの生存を危うくさせる行為は、日本の恥を世界中に曝すこととなります。地球の環境悪化を憂う全世界の人々は、このような暴挙を、決して許さないでしょう。

巨大マンション計画推進に依る、自然破壊及び交通渋滞その他周辺の被害発生は、挙げて計画推進者である5地権者・建築主や、長谷工にあります。残念ながら、私達の町田市当局にもこの責任の一端を有することを敢えて指摘します。

以上、建築計画に抗議し、建築撤回を求める声明文とします。

2004年6月20日

旧日本IBMグランド跡地周辺住民一同